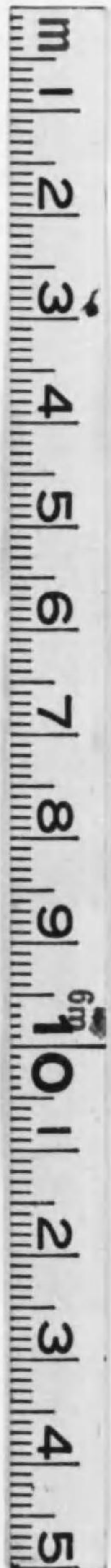


特253

609

三谷玉泉寺同業組合成績



始



特253
604



三遠手絲製造同業組合成績



三國五緯漢書同業會集卷之八



宋玉然祭

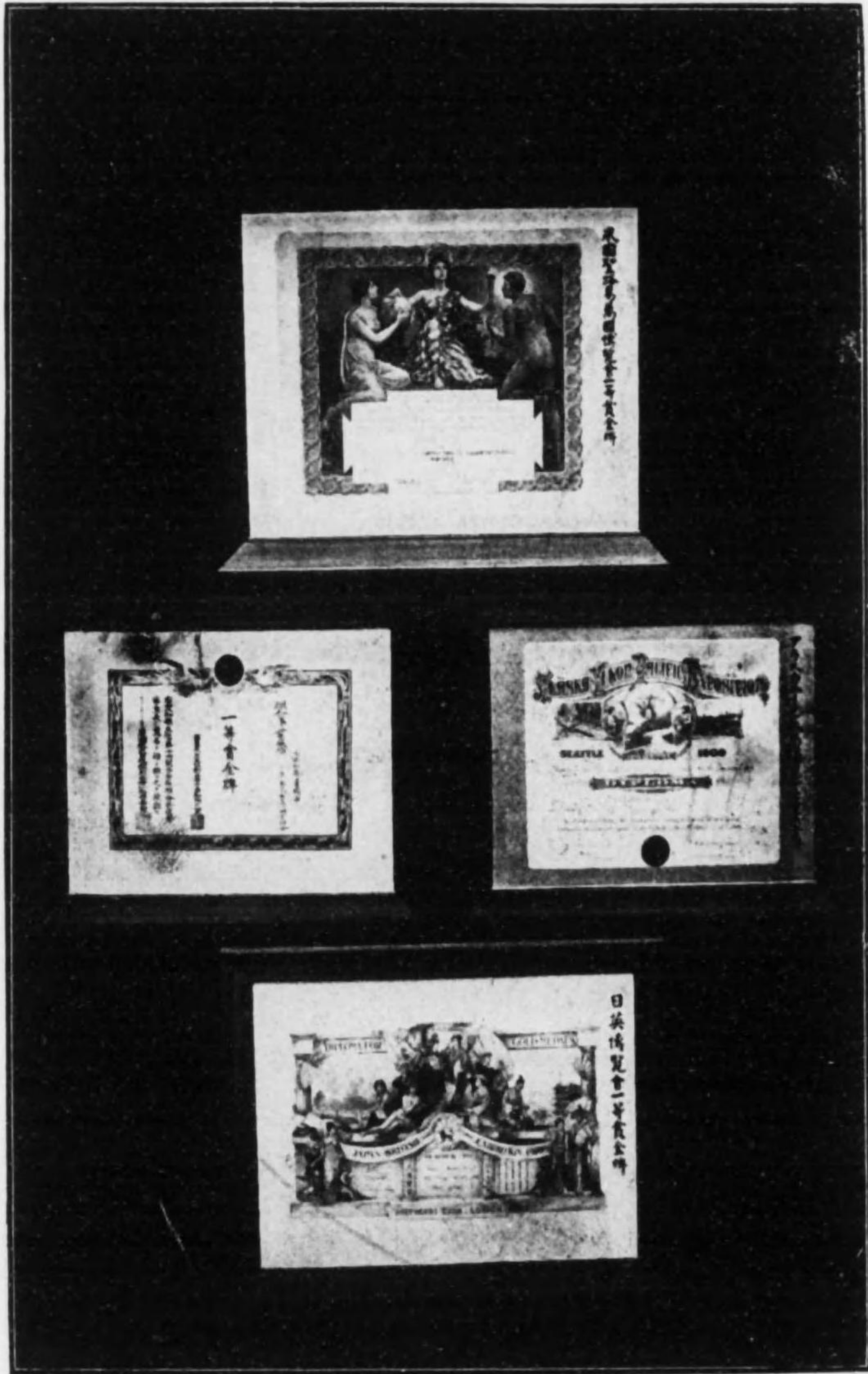
大日本蠶絲會御頭々清浦奎閣
正二位一等伯爵 清浦奎閣 贈寄時



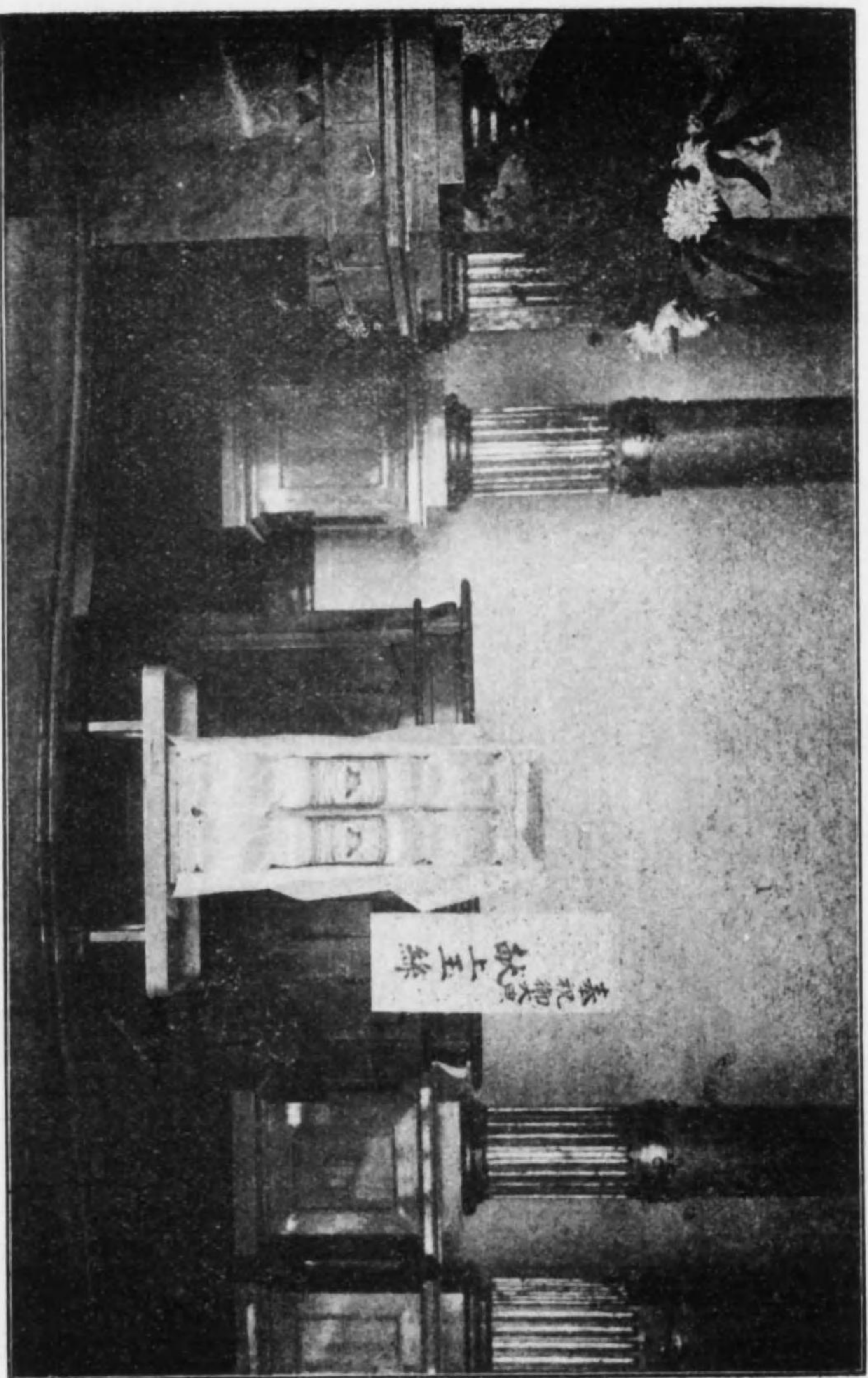
一ノ其 章標体團用専合組業同造製絲玉遠三



三遠玉絲製同業組專台用團標章其二



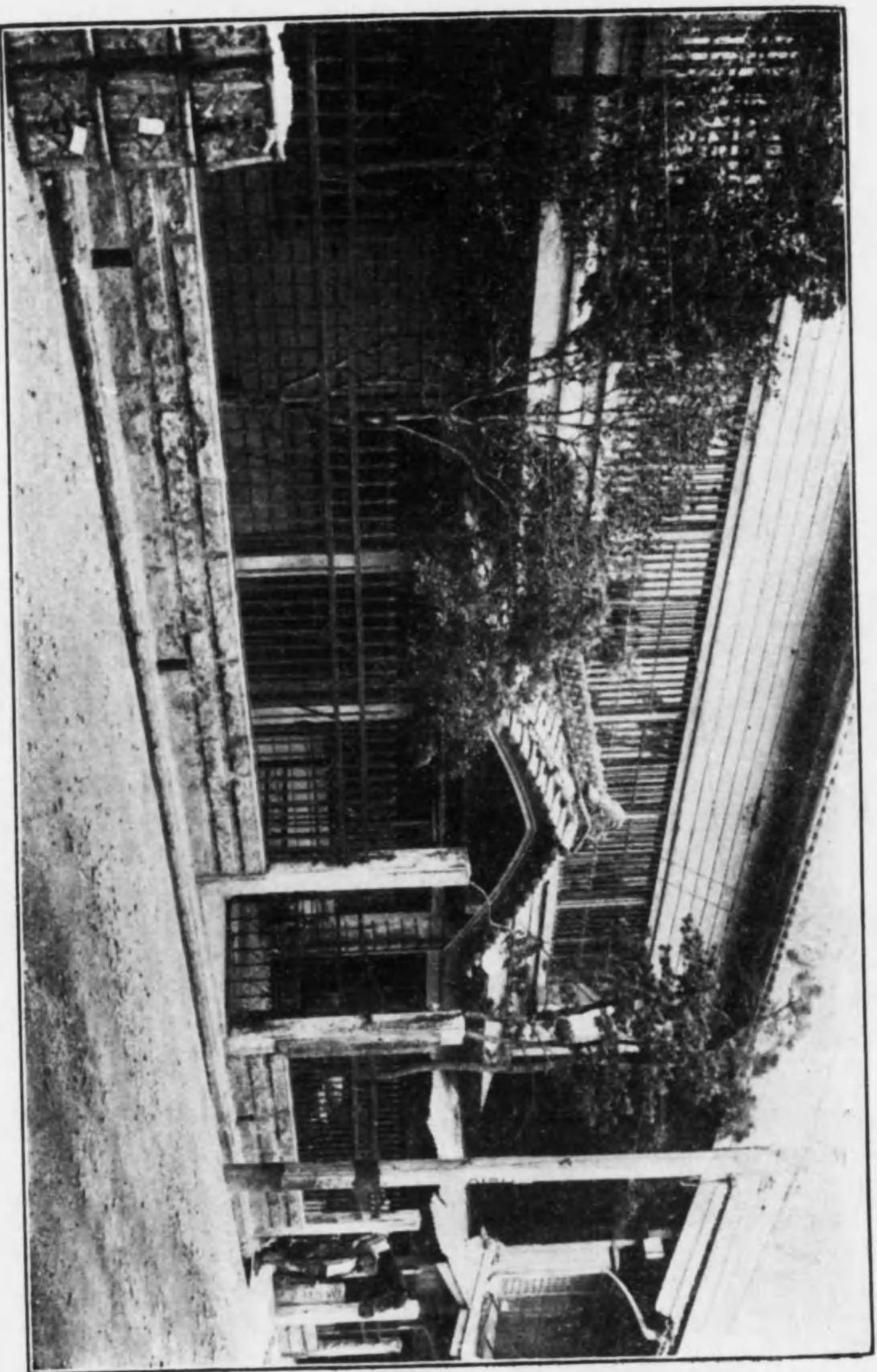
牌金賞等一會覽博國萬易路聖國米
 牌金賞等一會進共合聯縣府西關
 牌金賞等一會覽博洋平太ノコユカスラア
 牌金賞等一會覽博英日



Faint, illegible text or markings on the right page, possibly bleed-through from the reverse side of the paper.

豐橋市大字指空
 三遠玉絲製蓮同業組合
 組長金子大作
 一玉絲 貳括
 右御即位奉祝、為獻納、段
 御満足被 思召候事
 大正四年十月十日
 宮内省



三遠玉絲製同業組事務所

三遠玉絲製造同組合成績

沿革

東三ニ於ケル製絲業ノ創立ハ明治十一年ノ頃ニシテ當時事業甚ダ幼稚ニシテ座繰器械ニ依リ少量ノ生絲ヲ製出スルニ過ギザリキ明治十六年ノ頃ヨリ始メテ玉繭ヲ以テ粗製ノ玉絲ヲ製シ自家用ニ供スルモノアリシガ年月ヲ經テ其技稍熟シ濱松地方ヲ始メ漸次八王子等ノ機業地ニ使用セラル、ニ至レリ明治二十八年汽罐汽機ヲ設置シ製品ノ改良ヲナシ細筋ノ品ヲ製出スルモノアリテ越前福井並ニ京都地方ニ販賣シ稍需用ヲ増加セリ然レモ當時ノ狀態タル營業者間ノ氣脈更ニ疎通セズ目前ノ小利ニ抱泥シ敢テ斯業ノ前途ヲ顧慮スルモノナク絲價ノ好況ニ際セバ直ニ粗製濫造ニ流ル、ノ弊アリ日清戰爭後事業熱一時ニ勃興シ諸物價騰貴ノ餘波ヲ受ケ絹織物ノ需用激增シタルヲ以テ從來曾テ見ザル高價ヲ示シ同業者モ從ツテ増加セリ明治三十三年ニハ前年來ノ反動ニヨリ絲價暴落シ加フルニ好況中ノ粗製濫造ハ著シク玉絲ノ信用ヲ失墜シテ販路杜絶シ製品ノ堆積ヲ來シ加フルニ經濟界ノ打撃ヲ受ケ金融頓ニ切迫シ破産ノ不幸ニ沈淪スルモノ東三河ヲ通ジテ十數餘ノ多キニ上リ甚シキニ至ラザルモ多大ノ損害ヲ蒙リ殆ンド營業ヲ繼續スル能ハザルノ悲況ニ陥リ遂ニ同盟休業ヲナスノ止ムナキニ至レリ茲ニ於テ當業者モ亦自ラ深ク悟ル所アリ有志相謀リ同業者ヲ勸誘シ萬難ヲ排シテ同業組合ヲ組織シ明治三十四年十月農商務大臣ノ認可ヲ經テ事務所ヲ豊橋市大字

本町二番戸ニ設置シ組合一般ノ事務ヲ處理シ益々製品ノ改良販路ノ擴張ヲ圖リ海外輸出ノ端緒トシテ露國へ櫻印ヲ輸出スルニ至レリ是ヲ本邦玉絲輸出ノ嚆矢トス明治三十六年七月事務所ヲ豊橋市大字西八町百三十三番戸ニ移轉シ輸出品ニ對シテハ綿密ナル検査ヲナシ一面横濱各商館ノ手ヲ經テ歐米各國機業地ニ見本品ヲ贈リテ益々輸出ノ途ヲ購シタル結果太筋物ノ注文ニ接シ「バラ」印ノ商標ヲ附シ輸出シタリ當時輸出品ハ價格ノ低廉ト數量ノ多額ナル爲組合ニ於テ釜數ニ割リテ之ニ應ジ損害ヲ顧ミズ一意販路ノ擴張ニ努メタリ爾後引續キ海外ノ注文ニ接シ内地需用モ亦増加シ内外相應ジテ益々盛況ノ域ニ進ミタリシガ三十七年日露國交斷絶シ戰端ヲ開クニ當リ遂ニ輸出ノ途絶へ再ビ悲境ニ沈淪スルノ止ムナキニ至レリト雖モ幸ナル哉皇軍連勝ノ結果内地ノ需用ハ次第ニ増加シタルニ依リ同業者モ營業ヲ持續スル事ヲ得タリ三十八年戰役治マリ國交舊ニ復スルト共ニ絹織物ノ需用モ亦再ビ激増シ新ニ歐米各國ヨリモ注文ニ接シ輸出ノ途稍確實トナリ斯業ノ前途益々好望トナレリ茲ニ於テカ事務所ノ狹隘ヲ告ゲ製造品ニ機械的検査ヲ爲スノ必要ヲ生ジタルニ依リ事務所並ニ検査所新築ノ議起リ地ヲ豊橋市大字指笠三十二番地ニトシ三十九年工ヲ起シ四十年六月竣工シタルヲ以テ同所ニ移轉シ組合一般ノ事務ヲ處理シテ事業益々發展セリ大正三年八月歐洲ノ戰亂起リテ絲價暴落シ横濱ノ定期絲ハ七百圓ノ關門ヲ打破スルノ悲況ニ陥リ隨テ玉絲ノ打擊モ亦甚大ニシテ同盟休業ヲ主張スルモノアリシガ幸ニ持續スルヲ得テ以後漸次恢復シ順調ニ向ヘリ大正五年九月工場法施行セラレ組合員ノ工場設備ト内容ノ充實トハ茲ニ

一階段ヲ進メ隨テ組合ノ事業モ益々發展シ検査室ノ狹隘ヲ告ゲタルニ依リ同年隣接地ヲ購入シテ翌六年検査室ヲ増築シ食堂ヲ移轉シテ構内ヲ整理シ正量検査室一棟ヲ新築シテ豫テノ懸案タル正量検査ハ同年十月ヨリ製品全部ニ對シ實施スル事トナレリ一面歐洲ノ戰亂ハ一時悲觀セシモ時日ノ經過ト共ニ反テ我產業界ノ勃興トナリ大正六年度ノ海外輸出玉絲ハ六千四百四捆ヲ計上シ内地ノ需用モ亦旺盛ヲ極メ漸次昂進シテ大正九年一月ニハ殆ンド絶頂ニ達シ未曾有ノ高値ヲ出現セシカバ組合員ハ此機ニ乘ジテ工場ノ擴張ニ原料ノ購入ニ積極的ニ殆ンド全力ヲ傾注シテ餘ス所ナカリシガ同年四月以來急轉直下ノ大暴落トナリ僅々三四ヶ月ニシテ約三分ノ一ニ低下シ金融梗塞シテ前約品ハ總テ破棄セラレ商取引ハ杜絶シテ大恐慌ヲ惹起シ其慘憺タル光景實ニ名狀スベカラズ遂ニ六月一日ヨリ三ヶ月間同盟休業ヲ爲シ生産ノ調節絲價ノ維持ニ努メタリシモ顯著ナル効果ヲ奏セズ萎靡振ハザルモ幸ニシテ倒産者ヲ出サズ益々緊張シテ業務ノ改善ヲ企圖シ大正十年ヲ迎ヘテ財界ノ安定ト共ニ組合員ノ努力ハ一層其度ヲ加フルニ至レリ大正十二年九月一日東京横濱ヲ中心トシテ起リタル關東大震火災ノ爲メ交通杜絶金融梗塞トナリ商取引ハ殆ンド絶無ノ有様ニテ製品ハ停滯シ一時沈衰ノ極ニ達シタリシガ幸ニ輸出向ニ商談行ハレタルト蠶絲業者ノシンジゲート成立シテ銀行ヨリ金融ノ途開ケタル等ノ關係ヨリ徐々回復スルコトヲ得タリト雖モ以後經濟界ハ遲々トシテ振ハズ昭和二年四月下旬ニ至リ大銀行ノ休業問題ヨリ遂ニモラトリアム實施トナリ絲況益々不振同年七月一日ヨリ生産調節ノ爲メ釜數ニ割減ヲ決議シテ絲價維持ニ

四
努ムモ近年ニ至リ蠶種改良ノ結果玉繭ノ減産甚ダシク爲ニ原料ノ拂底ヲ來シ一方人造絹絲
絹絲紡績ノ大進出アリ因之需用地ノ異狀ハ製品安ヲ招來シ大打撃ヲ蒙ルニ來レリ併カモ
玉繭ノ激減ハ年ヲ逐テ甚ダシク此ノ原料高製品安ノ矛盾ハ遂ニ昭和七年八月從來ノ制限簽
數ニ更ニ三割合計五割制限ノ止ムナキニ立至リ他方資金ノ涸渴ハ殊ニ甚ダシク豫而準備中
ノ政府ノ低利産業資金二十三万円ヲ組合員全員連帶責任ノモトニ借入レ以テ一時ノ急ヲ救
ヘルモ如何セン玉繭ハ漸減ノ一途ヲ辿レル爲簽數五割制限ハ依然トシテ存シ加之組合員中
採算不引合ヲ極ムル爲メ休業、轉業、廢業者相踵ギ現在組合員四十六名ト謂フ今昔ノ感ニ
堪ヘザル状態ニ至レルト雖モ生存ノ現組合員ハ毅然トシテ這間ノ難關ヲ克服シ昭和十二年
五月ニハ低利資金二十三万円ノ金額ヲ無事完済シ改良ヲ促シ茲ニ組合創立以來三十有七年
間幾多ノ波瀾曲折アリシモ組合ノ事業ハ超然トシテ遂行サレ製品ノ格付検査及正量取引ハ
華客ノ信用最モ厚ク進歩發達ノ域ニ達スルコトヲ得タリ

組合事業ノ經營法

組合設立兩三年間ハ諸般ノ準備完カラザリシニヨリ專ラ製品ヲ改良シ販路ノ擴張ヲ圖ラン
ガ爲メ東裝ヲ一定シテ長手造トナシ海外輸出玉絲ニ限リ検査ヲ行ヒシガ四十一年事務所檢
查所ノ新築落成ト同時ニ諸機械ヲ完備シ品位検査ヲ實行シテ組合統一ノ團體標章ヲ貼用シ
又大正六年ヨリ製品全部ニ對シ正量検査ヲ行ヒテ正量取引トナシ或ハ巡回教師ヲ常置シテ
汽機汽罐ノ取扱焚火法ノ改良指導ニ從事シ又組合員ヲ選拔特派シテ機業地ノ狀況ヲ視察セ

シメテ改良ヲ促シ尙亦昭和十一年一月ニハ組合員全員ヲ内地全國ニ派遣シ原料並ニ製品ノ
需供關係ヲ精査シ大正十年以來ハ玉絲懇話會ヲ設ケテ改良進歩ヲ企圖シ他面生産費切下ニ
努力昭和九年五月ヨリ遂ニ組合員ノ使用石炭ヲ全部共同購入シ尙昭和十一年五月ニハ玉絲
原料部ヲ設ケ原料玉繭ノ圓滑ナル取引ヲ實施シ之ニ附隨シテ使用玉繭ノ共同試驗場ヲ置キ
組合員並ニ關係者ノ福利ヲ計ル等敢テ完全ト稱スルニ至ラザルモ順調ニ目的ノ事業ヲ遂行
シ好果ヲ收メツ、アリト謂フベシ而シテ愛知縣ヨリ事業費ノ内へ年々補助金ヲ下附セラル

(一) 製品東裝方法

玉絲ノ東裝ハ從來島田造ナリシガ品質ヲ鑑別シ易キ爲メ長手造トナシ五ヶ所ヲ結束シ中央
ニ青紙ヲ卷キ綿絲ヲ以テ青紙ノ中央ヲ貫キテ封緘シ更ニ表面ニ團體標章ヲ側面ニ各自ノ小
印ヲ貼附シ團體標章ト青紙トニ割印シ組合員ノ製品タルコトヲ証明シ一梱ノ量目ヲ九貫ヨ
リ九貫五百匁迄トナシ一束毎ニ三遠玉絲製造同業組合員製品ト記シタル紙袋ニ納メ貳拾四
束ヲ以テ一梱トナス編絲結束絲青紙紙袋及團體標章ノ寸法ヲ一定シ事務所ヨリ一般ニ交附
ス組合格付以外少數ノ製品ニアリテハ尙島田造捻造トナスモ妨ナシト雖編絲結束絲青紙小
印ノ寸法ハ規定ニヨリ一定スルモノトス

(二) 玉絲検査規定、

第一 調製検査

調製検査ハ一束又ハ一括毎ニ定款第三條第六條第十二條ノ規定ニ照合シ其適否ヲ定ムルモノトス

第二 原量検査

原量検査ハ一件毎ニ玉絲ノ全量ヲ秤リ風袋量(青帶紙、團體標章、結束絲)ヲ秤量シテ之ヲ控除シ其ノ原量ヲ定ムルモノトス

第三 正量検査

正量検査ハ一件毎ニ玉絲四本又ハ四摺ヲ採リ之ヲ乾燥シ其無水量ニ依リ一件ノ總無水量ヲ求メ之ニ一割二分ノ水分量ヲ加ヘ正量ヲ算定スルモノトス

第四 再繰検査

再繰検査ハ一捆毎ニ玉絲四本又ハ四摺ヲ採リ一分間箆ノ回轉速力八十回ヲ以テ四十分間繰返シ絲條ノ切斷數ヲ檢定スルモノトス

第五 織度検査

織度検査ハ一件毎ニ玉絲四本又ハ四摺ヲ採リ絲長四百五十「メートル」ヅツ十口ヲ採リ〇、〇五「グラム」ヲ單位トシテ其總量ヲ秤リ平均織度ヲ定メ且ツ十口ニ於ケル細太ノ範圍ヲ定ムルモノトス

第六 類節検査

類節検査ハ一件毎ニ玉絲四本又ハ四摺ヲ採リ各二回宛絲長五百「メートル」ニ對スル類節

ヲ大小ニ分チ其ノ多寡ヲ検査スルモノトス

第七 強力、伸度検査

強力伸度検査ハ一件毎ニ玉絲四本又ハ四摺ヲ採リ各二回ヅツ検査シ其平均ニヨリ之ヲ定ム

(三) 玉絲検査規定細則

第一條 検査ニ際シ端數ニシテ一定セザルモノ又ハ検査ノ資格ナシト認メタルモノハ定款

第七十七條ノ規定ニヨラズ等外ノ文字ヲ記入シタル團體標章ヲ貼附ス但シ請求者ニ於テ

特別ノ請求ニ依ルモノハ機械検査ヲ施行スルコトアルベシ

第二條 検査ハ便宜上十二本以下ノ端數ハ機械検査ヲ用ヒズ肉眼ニテ検査シ格付スルコト

アルベシ

第三條 削除

第四條 再繰検査中絲條ノ切斷合格數ハ左ノ如シ

金 櫻	十五以內
金 孔雀	十五以內
金 鷄	十五以內
ツバメ	七以內
ギス以下	七以內

金 紅葉	十五以內
金 薔 鳩	十五以內
金 薔 薇	十三以內
トセミテフ	七以內
トシホフ	七以內

第五條 検査上左ノ一項又ハ數項ニ該當スルモノハ定款第七十七條ノ團體標章ニ「い」「ろ」ノ印ヲ押捺スルモノトス

一、二本揚リアリタルモノ

二、再繰中前條ニ定メラレタル以上ノ切斷アリタルモノ

三、定款第七十七條ノ規定ニ依ル細太ノ範圍外ノモノ

四、品位劣等ナルモノ

第六條 再繰検査ニ於テ拔取リタル四摺又ハ四本ハ其半數ヲ摺ノ内側ヨリ半數ヲ摺ノ外側ヨリ繰返スモノトス

第七條 正量検査ハ品位検査ノ爲メ提出シタルトキ之レヲ行フ但シ十二本未滿ノモノハ省略シテ原量検査ノミヲナスモノトス

第八條 検査ヲ受ケントスルトキハ請求書ニ検査料ヲ添付スベシ但シ検査料ハ別ニ之ヲ定ム

第九條 原量検査ハ検査料ヲ徴收セズ

第十條 検査規定第六及第七ハ當分ノ内必要ト認メタルモノ若クハ請求アリタルモノニ之ヲ施行ス

(四) 玉絲検査施行細則

第一條 玉絲検査ハ左ノ各號ニ付検査ヲ施行ス

- 一、調製
- 二、原量
- 三、正量
- 四、品位

(イ) 再繰 (ロ) 織度 (ハ) 類節
 (ニ) 強力伸度 (ホ) 肉眼

前記ノ外玉絲検査上必要ナル事項

第二條 玉絲ノ検査ヲ請求セントスルモノハ第一號雛形(省略)ノ請求書ニ玉絲ヲ添付シ検査所ニ提出スベシ

第三條 検査請求ノ爲メ提出スベキ玉絲ノ數量ハ一件ニ付一捆トス但シ場合ニ依リ端數ヲ受付クル事アルベシ

第四條 検査請求者ハ玉絲検査所々在地ノ代理人ヲ以テ請求スルコトヲ得前項ノ代理人ハ検査請求ニ關シ之ヲ検査請求者ト見做ス

第五條 検査請求ノ爲メ提出シタル玉絲ニシテ東裝上ノ不備其ノ他ノ事故ニヨリ検査ヲナス能ハサル場合ハ検査所ニ留置又ハ請求ヲ却下スルコトアルベシ

第六條 検査所ニ於テ第二條ノ玉絲ヲ受理シタルトキハ請求者ニ第二號雛形(省略)ノ預書ヲ交附ス預書ハ検査請求者ニ於テ前項玉絲ノ引渡シヲ受ケタルトキハ之ヲ玉絲検査所ニ

返附スベシ

第七條 玉絲ノ検査ハ請求書受理ノ順序ニ依リ之ヲ施行ス但シ検査規定細則第三條ノ場合ニアリテハ玉絲受理ノ順序ニ依リ之ヲ行フ

第八條 検査所ニ於テ検査ヲ終リタルトキハ検査ノ種類ニ從ヒ第三號雛形ノ検査表正副二通ノ内一通ヲ請求者ニ交附シ一通ヲ検査済玉絲中ニ挿入スベシ

第九條 品位検査済玉絲ニハ定款第七十七條ノ等級ニヨリ團體標章ヲ貼附シ之ニ第四號雛形ノ封印ヲ捺印スベシ

第十條 正量検査済玉絲ニハ検査表ト同一番號ヲ團體標章ニ記入スベシ

第十一條 検査所ニ於テ検査ヲ終リ又ハ検査請求ヲ却下セントスルトキハ口頭又ハ書面ヲ以テ其旨検査請求者ニ通知スベシ

第十二條 検査請求者ハ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ直ニ玉絲ノ引取ヲ爲スベシ

第十三條 品位検査ノ爲線取りタル玉絲ハ之ヲ検査請求者ニ還付セズ

第十四條 検査所ニ於テ正量検査以外ニ必要ト認メタルトキハ乾燥室ニ於テ玉絲ノ乾燥ヲ爲スコトアルベシ

第十五條 検査ノ結果ニ依リ必要ト認メタルトキハ再検査ヲ爲スコトアルベシ

第十六條 検査所ハ検査ノ爲メ提出シタル玉絲ニ付不可抗力ニヨリ生シタル損失ノ責任ニ任ゼズ

第十六條 検査ノ爲メ提出シタル玉絲ハ理由ノ如何ニ關ラズ請求ヲ取消シ又ハ之ヲ變更スルコトヲ得ズ

(五) 職工保護獎勵

工場法、健康保險法ノ完備實施ト退職手當法ノ發布實現ニヨリ從來(明治三十五年六月以降)當組合ニ於テ行ヒツ、アリシ職工保護並ニ獎勵規程ハ精神ニ於テ方針ニ於テ同一ニシテ現在其ノ必要ヲ認メザルニ至レルヲ以テ昭和十二年三月限り同規程ヲ廢シ賞狀ヲ下附ス又機關手獎勵規程ヲ設ケ三ヶ年以上同一工場ニ勤績シ勤勉實直ニシテ他ノ模範トナルベキモノニハ退場ノ際工場主ノ請求ニヨリ特別賞ヲ下附ス其ノ標準ハ三年以上金貳圓以後一年ヲ増ス毎ニ金貳圓ヲ加フ

(六) 經費徵收方法

組合ノ發展ト共ニ經費モ著シク増加シ釜數割ノミニテハ收支償ハザルヲ以テ拂下品ノ利益及検査料ヲ徵收シテ之ヲ支辨ス其ノ徵收方法ハ釜數割賦課金ハ十日以前ニ組合員ニ徵收通知書ヲ發送シテ四月十日徵收シ品位検査料拾貳本未滿壹本ニ付金壹錢正量検査料壹圓(廿四本)金壹圓トシ検査ノ都度徵收ス束裝品ノ利益ハ拂下ノ都度原價ト同時ニ之ヲ徵收ス

(七) 視察

明治三十四年愛知縣廳ノ囑託ニヨリ群馬福島新瀉各縣ニ於ケル斯業ノ狀態及機業地ノ狀況

ヲ視察シ全三十五年愛知縣ノ囑託ニ依リ清國上海蘇州杭州等ニ於ケル斯業ノ狀態並ニ原料玉爾ノ視察ヲナシ從來間接輸入ナリシ支那玉爾ヲ直接輸入トナシ全三十九年組合員二名ヲ岐阜滋賀京都石川富山ノ各府縣ニ他ノ二名ヲ神奈川東京埼玉群馬栃木長野新潟福島ノ各府縣ニ派遣シ斯業ノ狀況ヲ視察セシメ各種織物ノ見本ヲ購入シ報告ノ材料トナシ全四十二年組合員六名ヲ東北各府縣北陸地方及關西地方ニ分遣シ以後毎年組合員或ハ懇話會員ヲ諸國ニ派シ昭和十一年ニハ全組合員ヲ本州九州四國ニ分遣機業地並ニ原料供給地ノ狀況ヲ視察シテ報告會ヲ開キ改良ヲ企圖セリ

成績

一 營業上弊害ノ矯正

弊害矯正ニ付テハ組合定款ノ定ムル所ニヨリ處罰シ商取引及定款以外ノ出來事ニ關シテハ同業者ノ德義制裁ヲ以テシタルニ組合創立當時ハ多少ノ違約者アリタレモ漸次矯正シテ目今ニテハ弊害ヲ除去シ違約者モ殆ト皆無トナルニ至レリ

二 製品及營業上ノ改善發達

製品ハ検査施行後總テ一定ノ格付ヲ爲スヲ以テ團體標章ノ等級ニ依リ價格ニ相違アルモ表裏不同ノ憂ナク機業家及仲買人ハ安心シテ團體標章名ヲ以テ取引ヲナス就中海外輸出品ニ於テハ團體標章名ヲ以テ二三ヶ月後受渡ノ契約ヲ爲スト雖モ受渡期日ニ至リ延滞ヲ

生ジタル事ナク絲價ノ高下ニ依リ破約ヲ來スガ如キ行爲更ニ無ク品位ノ点ニ於テ苦情ヲ生ジタル事少ナク又從來原料検査ヲ爲シ來リシガ大正六年十月ヨリ製品全部ノ正量検査ヲ實行シテ正量取引トナシ益々市場ノ信用ヲ博スルニ至レリ

三 產額ノ増加

產額ノ増加ハ左表ノ如シ

年次	組合員數	簽數	製產數	全上價格	海外輸出數	内地販賣額
明治三十五年	六九	一、七八〇	二、二一九	五七七、五六二	七〇	二、〇四九
全三十五年	九四	二、四五〇	三、二二五	一、〇〇八、六一一	四〇〇	二、七二五
全三十七年	九七	二、〇一八	四、〇二五	一、〇三三、八七五	一、〇三五	二、九八〇
全三十八年	一一	四、六五二	五、一八六	一、五〇三、六〇八	八三一	四、一九五
全三十九年	一一	四、九六三	六、四〇九	二、二六九、〇五〇	四三二	五、九七八
全四十年	二五	五、二九一	六、六四〇	二、〇五八、四〇〇	一、二〇二	五、四三八
全四十一年	二〇	五、一〇八	七、三三〇	一、九四九、五〇〇	一、七四〇	五、四八〇
全四十二年	一一	五、三二〇	八、七五〇	二、二七五、五〇〇	二、七八〇	五、九七〇
全四十二年	〇〇	五、〇七〇	九、九八九	二、五三四、〇七〇	三、一八九	六、八〇〇
全四十四年	〇〇	五、三三六	一〇、一二五	二、三九九、二九四	二、四六一	七、六六四
大正元年	〇〇	六、〇三三	一二、〇五三	二、八四五、九一三	二、〇四五	一〇、〇〇八
全二年	〇〇	六、二六二	一四、六八五	三、四六八、一五七	一、六〇一	一三、〇八四
全三年	〇〇	六、六一九	一七、八九五	三、一〇七、八三六	一、六四三	一一、二五二
全四年	〇〇	七、五八三	一七、一四三	四、六〇七、四八六	一、二一九	一五、九二四

- 一大正十四年五月日本絹業博覽會二等賞銀牌
 - 一昭和二年米國獨立百五十年記念羅府博覽會名譽賞
 - 一昭和二年十月山形縣主催全國產業博覽會銀牌
 - 一昭和二年四月大日本蠶絲會ヨリ表彰セラレ
 - 一昭和三年十一月御大典奉祝名古屋博覽會名譽賞
 - 一昭和十年九月中旬日本產業共進會ヨリ金牌
 - 一昭和十二年五月汎太平洋平和博覽會ヨリ名譽賞牌
- 其他感謝狀記念賞ヲ受ケタル事頗ル多シ

献上玉絲

大正二年十一月中旬 大元帥陛下ニハ特別大演習御統監ノ爲メ名古屋離宮へ御駐輦ノ節我玉絲組合ハ謹製品六点ヲ天覽ニ供シ奉リタルニ内四点ハ御買上ノ光榮ニ浴セリ又大正四年十一月十日 大正天皇陛下御即位ノ大禮ヲ舉グサセ給フニ依リ我組合ハ奉祝ノ爲メ玉絲二括獻上ノ儀宮内大臣ニ願出タルニ幸ニ御聽許ノ恩命ヲ蒙レリ依テ組合員高崎峰平氏ニ委囑シテ謹製セシメ桐箱ニ納メ愛知縣ヲ經テ獻上シ奉リタルニ御満足ニ被思召候趣傳達セラレタリ昭和三年十一月十日 天皇陛下ニハ京都ニ於テ御即位ノ大禮ヲ舉グサセラル、ニ方リ我組合ハ奉祝ノ爲メ玉絲二括獻上ノ儀願出タルニ是又御聽許アラセラレタルニ依リ組合員

大林宇吉氏ニ委囑シテ謹製セシメ獻上セリ本組合ハ重ネ重ネノ光榮ニ浴シ感激情ク能ハザル處ナリ

勅使御差遣

昭和二年十一月 聖上陛下ニハ陸軍特別大演習ニ付名古屋大本營へ行幸アラセラレ御駐輦十日間演習御統監ニ或ハ地方ノ學事產業等御視察ニ御精勵御寸暇モナク殊ニ我玉絲同業組合へハ十一月十七日勅使トシテ山縣侍從ヲ御差遣ニ付役員代議員ヲ始メ元組長或ハ問屋組合役員等門前ニ奉迎シ金子組長ノ御先導ニテ階上御休憩室ニ入ラレ優渥ナル聖旨ノ御傳達アリ組長謹テ奉答シ要覽並ニ寫真帖玉絲標本ヲ獻上シテ組合ノ狀況ヲ委細上申シ後チ檢査所ヲ御巡覽ノ上御退出アラセラレ無上ノ光榮ニ浴セリ

巡回教師

組合員ノ工場ニ於テ消費スル一ケ年ノ石炭ハ約六千万斤以上ニシテ之ヲ取扱フ機關手ノ巧拙ハ經濟上影響スル處甚大ナルニヨリ大正八年四月ヨリ技術員ヲ常置シ各工場ヲ巡回シテ專ラ監督指導セシメ或ハ汽罐ノ定期檢査ニハ諸般ノ準備或ハ注意ニ努力セシムル等功績大ニ見ルベキモノアリ

功勞者

豊橋市本町河合生絲店主故河合常次郎氏ハ玉絲製品ノ販賣並ニ原料ノ蒐集等ニ盡力シテ常

ニ指導誘掖シ又二川町大字大岩故小淵玄ち氏ハ玉絲ノ創業者ニシテ他ノ模範トナリ斯業ノ爲ニ力ヲ盡シタル事鮮少ナラズ依テ明治四十二年三月十八日玉絲検査開始並ニ事務所落成式ヲ舉グルニ際シ銀盃一組宛ヲ贈リテ其功勞ヲ表彰セリ

二川町大字寺澤故大林宇吉氏(現今豊橋市花田町)ハ玉絲製造同業組合設立ノ主唱者ニシテ組合創立以來組長ノ職ニアルコト八ヶ年終始一貫組合ノ經營發展ニ努力シ能ク三遠玉絲ノ聲價ヲ發揚セシメタルノ功多ク又田原町故高崎峰平氏ハ優等櫻格ノ卒先者ニシテ且ツ組合創立以來評議員ニ或ハ幹事ニ歷任シ功績少ナカラザルニヨリ兩氏職ヲ去ラル、ニ方リ明治四十二年十二月十日大林氏ニ金盃一個高崎氏ニ銀盃一個ヲ贈リ其功勞ヲ表彰セリ

豊橋市大字花田故井上文作氏ハ組長在職中功勞大ナリシニ依リ明治四十四年一月五日銀盃壹組ヲ贈レリ

二川町大字小松原故鈴木伊右衛門氏ハ副組長在任中ノ功勞ニ依リ明治四十四年五月廿三日花瓶壹個ヲ贈レリ

新居町故田中元次郎氏ハ組合創立以來副組長ニ當選シ在職十有餘年常ニ組長ヲ補佐シテ組合ノ經營發達ニ努メラレタリ又下地町辻平三郎氏ハ評議員ノ職ニアル事は又十有餘年其功績少ナカラザルニヨリ兩氏ノ職ヲ去ラル、ニ方リ明治四十四年十一月廿六日田中氏ニ銀盃壹組辻氏ニ銀盃壹個ヲ贈リ感謝ノ意ヲ表セリ

東三齋絲問屋組合員ハ原料ノ蒐集製品販賣等ニ盡瘁シ大ニ斯業ノ發達ニ貢獻セラレタルノ

ミナラズ組合事務所並ニ検査所新築ニ方リ明治三十九年以來七ヶ年ニ金四千圓寄附セラレ豫定ノ計畫ヲ遂行シタルニ依リ大正二年三月十八日同組合ヲ招待シ金盃一個ヲ贈呈シテ感謝ノ意ヲ表セリ

豊橋市本町故小柳津莊作氏渥美郡杉山村故鈴木權十氏渥美郡二川町大字小松原故金子仁左衛門氏(現今豊橋市東新町)渥美郡二川町故倉橋和吉氏(現今豊橋市札木町)ハ本組合創立以來功勞不尠ニヨリ大正三年一月五日功勞表彰式ヲ舉行シ銀盃壹個宛ヲ贈レリ

渥美郡杉山村鈴木權十氏ハ副組長在職中ノ功勞ニヨリ大正二年一月五日花瓶壹個ヲ贈レリ渥美郡二川町故白井仙五郎氏ハ評議員トナリ或ハ副組長ニ或ハ組長ニ當選シ在職十有餘年常ニ組合ノ經營發達ニ盡瘁シ功勞不尠ニヨリ大正四年一月十七日銀盃一組ヲ贈リ其功勞ヲ表彰セリ

豊橋市東新町金子丈作氏ハ明治四十四年以來評議員トナリ尋デ副組長ニ或ハ組長ニ當選シ在職八ヶ年終始一貫組合ノ經營ニ盡瘁シ検査所ヲ増築シテ正量検査ヲ開始シ組合ノ基礎ヲ鞏固ナラシメタリ依テ大正八年一月廿三日金盃一個ヲ贈呈シテ表彰式ヲ舉行セリ

渥美郡杉山村鈴木權十氏ハ副組長在職四ヶ年功勞不尠ニヨリ大正八年一月二十三日銀盃壹個ヲ贈呈セリ

濱名郡白須賀町大場周太郎氏ハ評議員又ハ代議員ニ在職多年功勞不尠ニ付大正八年十二月十四日銀盃壹個ヲ贈呈セリ

豊橋市本町故河合程平氏並萱町合名會社關口商店ハ本組合ニ對シ功勞不尠ニ付大正十三年四月一日表彰式ヲ舉行シ河合氏ニ金盃壹個關口商店ハ銀盃壹組ヲ贈呈セリ

豊橋市池田町清水熊太郎氏ハ代議員評議員又ハ組長當選在職前後十有六年間組合ノ爲メニ盡力シ功績偉大ニ付大正十四年二月一日金盃一個ヲ贈呈シ表彰式ヲ舉行セリ

豊橋市花田町故鈴木伊右衛門氏ハ評議員幹事副組長ノ職ニアルト十有七年功績偉大ニ付昭和二年五月十八日銀盃一組ヲ贈呈シテ表彰式ヲ舉行セリ

豊橋市東新町金子丈作氏ハ大正十三年十一月再ビ組長ニ當選昭和五年十一月退職ニ付金屏風一雙ヲ贈呈シテ表彰式ヲ舉行セリ

渥美郡田原町高崎一二氏ハ大正九年以來副組長ニ幹事ニ當選在職十七年間組合ノ爲メ盡力シ功績偉大ニ付昭和十一年十一月表彰狀並ニ記念品ヲ贈リ其ノ勞ヲ謝セリ

組合ノ財産

昭和十一年度末現在組合ノ財産ハ左ノ如シ

- (一) 土地 六筆四百六十七坪五合三勺 此價額貳萬參千八百圓
但事務所檢査所倉庫其他控家ノ敷地
- (二) 建物 二百九十一坪三合五勺 此價額壹萬四千圓
但事務所檢査所倉庫食堂便所控家

- (三) 器械器具 三千三十點 此價額貳萬圓
- (四) 機關手獎勵金 金九百拾圓十五錢 此拂込金額參千貳百五拾圓
- (五) 帝國蠶絲倉庫株式會社株式 二百六十株 五枚
- (六) 基本財産 第三回五分利公債額面千圓券 五枚
- (七) 定期預金 六千貳百五拾五圓
- (八) 備荒積立金 貳拾壹萬七千九百六拾圓五拾六錢

三遠玉絲製造同業組合定款 (昭和十二年六月現在)

第一章 目的及業務

第一條 本組合ハ協力一致シテ玉絲製造業ノ改良發達ヲ圖リ其利益ヲ増進スルヲ以テ目的トス

第二條 本組合ノ業務概ネ左ノ如シ

- 一 模範製絲場設置ニ關スル事
- 二 玉絲品評會開設ニ關スル事
- 三 檢査所ヲ設ケ製品ノ檢査ヲナス事
- 四 新繭及春挽製絲ノ始業並ニ終業期日ヲ定メ又ハ職工就業時間ヲ一定ナラシムル

- 五 職工給料並ニ備入ニ關スル事
- 六 職工ノ保護獎勵ニ關スル事
- 七 他ノ同業者ト氣脈ヲ通ズル事
- 八 行政廳ノ諮詢ニ答申シ又ハ建議スル事
- 九 統計ニ關スル事
- 十 前各項ノ外必要ナル事項

第三條

本組合員ノ製造品ニハ各其ノ定ムル所ニ從ヒ規定ノ團體標章、結束絲、編絲、青帶紙及紙袋又ハ包紙ヲ用フルモノトス但シ團體標章、結束絲、編絲、青帶紙及紙袋又ハ包紙ヲ用ヒザル製造品ヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ用ヒシメ各其ノ價格ニ相當スル金額ヲ手數料トシテ徵收スルモノトス

第四條

團體標章、結束絲、編絲、青帶紙及紙袋又ハ包紙形狀及寸法ハ評議員會ノ議決ヲ經テ組長之ヲ定ム

第五條

本組合團體標章、結束絲、編絲、青帶紙及紙袋又ハ包紙ハ總テ組合事務所ニ於テ製造シ組合員ノ請求ニヨリ拂下グルモノトス

第六條

本組合員ノ製造品ノ束裝ハ左ノ規定ニ依ルモノトス
玉絲結束法ハ長手造、島田造、捻造、折返造ノ四種トス

- 一 長手造及島田造ハ各一捆(二十四本)ノ量目ヲ九貫匁乃至九貫五百匁トシ捻造ハ一括量目ヲ四百二十匁乃至五百二十匁トシ折返造ハ一括ノ量目ヲ三百匁乃至三百五十匁トス
- 二 長手造ハ結束絲一筋ニテ二回トシ五ヶ所ヲ結束ス
島田造、折返造ハ結束絲一筋ニテ二回トシ三ヶ所ヲ結束ス
捻造ハ結束絲一筋ニテ二回トシ三ヶ所ヲ結束ス
其ノ切端ハ結放トシ凡ソ曲尺二寸五分トス
編絲ハ一筋ニテ二ヶ所以上編ムモノトス
- 三 長手造ハ青帶紙ヲ以テ帶卷トシ團體標章ヲ貼付スベシ
- 四 長手造ハ紙袋ニ捻造ハ包紙ニ入ル、モノトス
- 第七條 本組合員ノ製造品ハ總テ検査ヲ受クルモノトス
- 第八條 本組合員ニ於テ販賣スル玉絲ニシテ組合員外ノ製造品ハ勿論組合員タリト雖モ地區外ノ製造品ハ總テ検査ヲ受クル事ヲ得ズ
- 第九條 本組合員ハ其ノ製造品ヲ販賣若ハ質入擔保トナサントスルトキ其ノ他何等ノ名義ヲ以テスルモ之ヲ他人ニ交付セントスルトキハ豫メ検査所ニ至リ検査ヲ受クベキモノトス
- 第十條 本組合員ハ第七條及第九條ノ検査ヲ受ケザルモノヲ購買シ又ハ質入擔保其

他何等ノ名義ヲ以テスルモ之ヲ引受クルコトヲ得ズ

第十一條 本組合員ハ組合團體標章、結束絲、編絲、青帶紙及紙袋又ハ包紙ノ使用ナキ製造品ヲ賣買取引スルコトヲ得ズ

第十二條 團體標章、結束絲、編絲、青帶紙及紙袋包紙ヲ偽造變造又ハ再度使用スルコトヲ得ズ

第十三條 本組合員ハ検査証ヲ偽造若クハ變造シ又ハ製品ニ不正行爲ヲナシテ利得ヲ圖ルコトヲ得ズ

第十四條 本組合員ノ製造品ニシテ組長ニ於テ取調上必要ト認メタルトキハ製造者所有者又ハ荷主ニ預リ証ヲ交付シ無償ヲ以テ事務所又ハ組長ノ指定シタル場所ニ預リ置クコトヲ得此場合ニ於テ組長ハ之ヲ拒ムコトヲ得ズ但シ組長ハ五日間内ニ於テ評議員會ヲ開キ之ヲ處分スルモノトス

第二章 印章

第十四條 本組合ニ左ノ印章ヲ備フ

三遠玉絲製造同業組合之章	方一寸一分	三遠玉絲製造同業組合事務所印	方一寸一分	組長之印	方七分	副組長之印	方五分	幹事之印	方五分
--------------	-------	----------------	-------	------	-----	-------	-----	------	-----

第三章 名稱及事務所位置

第十五條 本組合ハ三遠玉絲製造同業組合ト稱シ事務所ヲ愛知縣豐橋市ニ設置ス

第四章 組合ノ地區及營業ノ種類

第十六條 本組合ノ地區ハ愛知縣ノ内豐橋市、渥美郡、寶飯郡、八名郡、南設樂郡、及靜岡縣濱名郡ノ内新居町、白須賀町、吉津村、新所村、入出村、知波田村ト定ム

第十七條 本組合ハ組合地區内ニ於テ玉絲ヲ製絲スル營業者ヲ以テ組織ス但シ釜數十

五釜以内ヲ備ヘ製絲スルモノハ此限ニアラズ

第十八條 本組合ハ其ノ地區ヲ分チテ左ノ三部トス

第一部 豐橋市、寶飯郡、八名郡、南設樂郡一圓

第二部 渥美郡二川町、靜岡縣濱名郡新居町、白須賀町、吉津村、新所村、入出村、知波田村

第三部 渥美郡(二川町ヲ除ク)一圓

第五章 加入及脱退

第十九條 本組合ノ地區内ニ於テ本組合組織ニ關スル業務ヲ營マントスルモノハ第二十五條ノ事項ヲ具シ組長ニ申出テ組合ニ加入スルヲ要ス

加入者ハ前項届出ト同時ニ加入當時ニ設備セル届出釜數ニ應ジ一釜ニ付左ノ種別ニ

ヨリ加入金ヲ納付スベシ加入後滿二ケ年内ニ増釜シタルトキハ加入當時ニ設備シタルモノト見做シ其ノ増釜ニ對スル加入金ヲ追徴ス

第一種 一釜ニ付金五拾圓 第一種ハ普通加入者トス
第二種 一釜ニ付金壹百圓 第二種ハ左ノ各項ニ依ル加入者トス

一、製糸設備整理補償規程ニ依リ廢業又ハ繰糸機ノ一部ヲ廢棄シタル者
二、第一項ニヨリ廢業又ハ廢棄ヲナシタル該當工場ヲ使用スルモノ

三、其他合法的手段ニ依ル者ト雖モ前二項ニ關係アリト認ムル者
第二種ハ昭和十七年三月三十一日迄ノ加入者ニ適用スルモノトス

組合員ニ於テ増釜シタルトキハ一釜ニ付金參拾圓ノ増釜料ヲ納付スベシ
第二十條 本組合員ハ所定ノ標札ヲ受クルヲ要ス

標札ハ事務所ニ就キ營業所毎ニ之ヲ受ケ店頭又ハ工場ニ掲揚シ置クベシ
本組合ノ標札左ノ如シ

表 第二 號 玉絲組
面 分五寸 八寸

三遠玉絲製	玉絲組
造同業	合之印
組合之證	何之誰

第二十一條 本組合員ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ都度組長ニ届出ツベシ

一、廢業ヲ爲サムトスルトキ

二、家督相續ヲ爲サムトスルトキ

三、住所ヲ移轉セムトスルトキ

四、本組合ノ標札ヲ紛失シ又ハ盜難ニ罹リタルトキ

前項ノ事由ニヨリ標札ノ所持ヲ要セサルニ至リタルトキハ之ヲ返附シ其ノ書換ヲ要スルトキハ之ヲ組長ニ届出ズベシ

第二十二條 標札ヲ下附シタルトキハ其ノ都度標札料ヲ徴收ス

第二十二條ノ二 本組合員ニシテ業務ヲ營マザルコト一ケ年以上ニ及ブトキハ評議員會ノ決議ヲ經テ除名スルコトアルベシ

第二十三條 本組合員ハ自己ノ使用スル釜數ニ異動ヲ生ジタル時ハ七日以内ニ組長ニ届出ヅベシ

第二十四條 組長ハ組合員名簿ヲ調製シ異動アル毎ニ之ヲ加除訂正スベシ

第二十五條 組合員名簿ニ記載スベキ事項左ノ如シ

一、組合員ノ氏名出生ノ年月日及本籍地但シ本籍地區外ニアルモノハ其ノ住所地ヲ併記スルコト

法人ニ在テハ其ノ名稱及事務所ノ所在地並ニ代表者ノ氏名設立許可ノ年月日

- 二、營業所ノ所在地
- 三、商號及工場ノ名
- 四、開業ノ年月日
- 第二十六條 本組合員ニシテ前條組合員名簿ニ記入スベキ事項ニ異動ヲ生ジタル場合ハ七日以内ニ組長ニ届出ヅベシ

第六章 組合員ノ權利義務

- 第二十七條 本組合員ハ本組合ノ代議員ヲ選舉シ又役員代議員ニ選舉セラル、ノ權利ヲ有ス
- 第二十八條 本組合員ハ本組合定款及會議ノ決議ヲ遵守服從シ組合費ヲ負擔スルノ義務ヲ有ス
- 第二十九條 本組合員ハ常ニ本組合ノ利害得失ニ依ル事項ニ着目シ意見アルトキハ之ヲ組長ニ建議スルコトヲ得
- 第三十條 本組合員ノ製造品ヲ取扱フ絲商ニシテ製造品ニ貼附セル團體標章ヲ剝奪シ其ノ他規定ノ束裝ヲ變更スルモノアルトキハ其ノ理由顛末ヲ詳悉セル書面ヲ製シ組長ヘ申告スベシ
- 組長ハ事實ヲ調査シテ之ヲ評議員ノ議決ニ付スベシ

- 第一項ノ申告ノ手續ハ公然又ハ秘密ノ方法ニ據ルモ申告者ノ隨意トス
- 第三十一條 本組合員ハ組合ノ事務ニ關シ事務所ヨリ召喚ヲ受ケタルトキハ指定ノ場所及其ノ日時ニ必ズ出頭スルノ義務アルモノトス但シ止ムヲ得ザル事故アリテ出頭シ難キトキハ用務ヲ辨ズルニ差支ナキ相當ノ代人ヲ差出スベシ
- 第三十二條 本組合員ハ家族又ハ傭人ノ行爲ト雖モ業務上ニ關シテハ總テ其ノ責ニ任ズルモノトス

第七章 役員ノ資格權限及選舉

- 第三十三條 本組合ニ左ノ役員代議員及事務員ヲ置ク
- 一 組長 壹名
- 一 副組長 壹名
- 一 評議員 五名
- 一 幹事 壹名
- 一 以上役員 壹名
- 一 書記 若干名
- 一 理事 壹名
- 一 書記 若干名
- 一 檢査員 若干名

一 技 手 若干名

以上事務員

一 代 議 員 拾八名

役員、事務員、代議員ハ互ニ相兼ヌルコトヲ得ズ

第三十四條 左ノ各項ノ一ニ該當スルモノハ本組合役員及代議員ニ就職スル事ヲ得ズ

一 地區外ニ居住スルモノ

一 未成年者

一 無能力者

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ商業及農業ヲ妨害スル罪、財産ニ關スル罪、風俗ヲ害スル罪、並ニ信用ヲ害スル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレ滿期後又ハ赦免後ニケ年ヲ經過セザルモノ

一 無期又ハ六ケ年以上ノ懲役若クハ禁錮及舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者

一 復權セザル破産者及家資分散者

第三十五條 組長ハ組合一切ノ事務ヲ總理シ組合ヲ代表ス

第三十六條 副組長ハ組長ヲ補佐シ組長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第三十七條 評議員會ハ組長ノ諮詢ニ應ジ及事務執行ノ狀況ヲ監査スルモノトス

組長副組長共ニ故障アルトキハ年長ノ順ニ從ヒ其ノ職務ヲ代理ス

第三十八條 幹事ハ組長ノ旨ヲ受ケ組合一切ノ經費收支ヲ掌ルモノトス

第三十九條 事務員ハ左ノ區別ニ從ヒ各其ノ職務ヲ擔任ス

一 理事ハ組長ノ旨ヲ受ケ書記以下ヲ指揮監督シ組合ニ關スル事務ヲ掌理ス

二 書記ハ上司ノ命ヲ受ケ庶務計算ニ從事ス

三 検査員ハ製造品ノ検査ニ從事ス

四 技手ハ上司ノ命ヲ受ケ受持技術ノ改良發達指導ニ從事ス

第四十條 役員代議員ノ任期ハ各二ケ年トシ滿期再選セラル、事ヲ得

第四十一條 新役員就任ニ關シテハ主務官廳ノ指令ニ接シタル後五日以内ニ舊役員ヨリ

事務ノ引繼ヲナスベシ但シ此ノ場合ニハ直ニ新舊交替ノ旨ヲ組合員一般ニ通知スルモノトス

第四十二條 役員代議員任期滿了其ノ他ノ事由ニ依リ退職シ其ノ職務ヲ行フモノアラザ

ルトキハ後任者ノ就職ニ至ルマデ尙其ノ職ヲ離ル、コトヲ得ザルモノトス但シ第三十四條ニ該當シ資格消滅ニ歸シタル場合ハ此ノ限ニアラズ

第四十三條 組長副組長幹事及評議員ハ代議員會ニ於テ組合員中ヨリ選舉スルモノトス

第四十四條 事務員ノ員數及任免俸給額ハ評議員會ニ謀リ組長之ヲ定ム

第四十四條ノ二 検査員服務規定、検査員分限令、検査員賞與規定、検査員選任解任規定ハ別ニ之ヲ定ム

第四十五條 代議員ハ第十八條ニ定ムル各部ノ組合員中ヨリ左記割合ヲ以テ選舉ス

- 第一部 十四名
- 第二部 二名
- 第三部 二名

第四十六條 代議員ノ選舉ハ組長又ハ組長ノ指定シタル組合員之ヲ管理シ少クモ選舉ノ

日ヨリ七日前ニ選舉ノ場所日時等ヲ定メ投票用紙ヲ添へ選舉人ニ通知スベシ選舉管

理者ハ臨時ニ選舉人中ヨリ二名選舉立會人ヲ選任ス

第四十七條 選舉ハ有効投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス投票同數ナルトキハ年

長者ヲ取り同年月日ナルトキハ選舉管理者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第四十八條 投票ノ効力ニ付疑議アルトキハ管理者ハ選舉立會人ノ意見ヲ聞キ之ヲ決定

ス此ノ決定ニ對シテハ異議ヲ申立ツルコトヲ得ズ

第四十九條 役員ノ選舉ヲ終リタルトキハ當選者ニ其ノ旨ヲ通知シ主務官廳ノ許可ヲ得

タルトキハ組合員ニ通知スルモノトス

當選者ハ正當ナル理由ナクシテ其ノ就職ヲ辞スルコトヲ得ズ

第五十條 評議員代議員ニ缺員ヲ生ジタルトキハ補欠選舉ヲ行フ其ノ補欠者ハ前任者

ノ殘任期間在職スルモノトス

第八章 會議規定

第五十一條 會議ヲ分ツテ組合會、評議員會ノ二トス

第五十二條 削 除

第五十三條 組合會ハ代議員ヲ以テ組織シ分チテ定時會臨時會ノ二種トス

第五十四條 定時會ハ毎年一月五月ノ二回トシ臨時會ハ組長及評議員會ニ於テ必要ト認

メタルトキ又ハ代議員定數ノ五分ノ一以上ガ會議ノ目的タル事項及其ノ招集ノ理由

ヲ示シテ請求アリタルトキ若クハ評議員會ガ第五十六條第一項上段ノ規定ニ依リ報

告ヲ爲ス爲メ組合會ノ招集ヲ請求シタルトキ之ヲ開クモノトス

第五十五條 組合會ニ於テ決議スベキ事項左ノ如シ

- 一、第二條ニ掲ゲル各項
 - 二、歳入出豫算ニ關スル事項
 - 三、決算報告及業務成績表ニ關スル事項
 - 四、組合費賦課徵收法ニ關スル事項
 - 五、基本財産ノ積立並ニ處分ニ關スル事項
 - 六、官廳ノ諮問ニ對スル答申並ニ建議ニ關スル事項
 - 七、定款變更ニ關スル事項
 - 八、其ノ他組合ニ關スル重大ノ事項
- 組合會ハ其ノ權限ニ屬スル事項ヲ評議員會ニ委任スルコトヲ得但シ官廳ノ許可ヲ要

スル事項ハ此限ニアラズ

第五十六條 評議員會ハ評議員ヲ以テ組織シ組合財産及業務ノ狀況ヲ監査シ每事業年度一回以上之ヲ組合會ニ報告シ組長ニ對シ意見ヲ述べ及第五十七條ノ事項ヲ決議スルノ職務權限ヲ有ス

評議員會ハ必要アルトキ之ヲ開ク

第五十七條

評議員會ニ於テ決議スベキ事項左ノ如シ

- 一、組合會ノ權限ニ屬スル事項ニシテ其ノ委任ヲ受ケタル事項
 - 二、組合會ノ決議ニ付スベキ議案ノ審査ニ關スル事項
 - 三、豫算費目中流用ニ關スル事項
 - 四、同業者間ニ生ジタル紛議仲裁ニ關スル事項
 - 五、違約者處分ニ關スル事項
 - 六、組長ノ諮問ニ關スル事項
 - 七、本組合ノ金庫指定ニ關スル事項
 - 八、其ノ他組長ニ於テ必要ト認メタル事項
- 第五十八條 會議ノ議長ハ評議員會ヲ除キ凡テ組長トス組長故障アルトキハ副組長ヲ以テシ副組長故障アルトキハ評議員中ヨリ仮議長ヲ選舉スベシ但シ經費決算及業務成績認定ニ關スル議事ニ付テハ代議員中ヨリ議長ヲ選舉スベシ

評議員會ノ議長ハ互選ニ依ル

第三十七條第一項ニ依ル評議員會ハ正副組長共故障アルモノトス

第五十九條 會議ハ組長之ヲ招集ス招集ハ開會ノ日ヨリ少クモ七日以前ニ議件ト共ニ之ヲ通知ス可シ急施ヲ要スル場合ハ此ノ期間ヲ短縮スルコトヲ得

組合會ニ於テハ前項ノ規定ニ依リ通知シタル議決ニ付テノミ決議ヲ爲スコトヲ得

第六十條 役員事務員ハ議事ニ參與スルコトヲ得但シ可否ノ數ニ加ルコトヲ得ズ

第六十一條 會議ハ別段ノ定メアル場合ヲ除クノ外議員半數以上出席スルニアラザレバ之ヲ開クコトヲ得ズ

前項ニ定メタル員數ノ代議員出席セザルトキハ出席シタル代議員ノ過半數ヲ以テ仮決議ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ各代議員ニ對シテ其ノ仮決議ノ趣旨ノ通知ヲ發シ更ニ一ヶ月内ニ第二回ノ組合會ヲ招集スベシ

第二回ノ組合會ニ於テハ出席シタル代議員ノ過半數ヲ以テ仮決議ノ認否ヲ決ス

第六十二條 會議ノ議事ハ出席員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第六十二條ノ二 組合會ノ議決ヲ經ベキ事項ニシテ輕微ナルモノニ付テハ組長ハ書面ニ依ル代議員ノ表決ヲ以テ組合會ノ決議ニ代フルコトヲ得

第六十三條 議長ハ書記ヲシテ會議ノ顛末ヲ決議録ニ記載セシメ出席員二名以上ト共ニ

之ニ記名捺印スルモノトス決議署名者ハ會議ノ初メニ於テ之ヲ定ムベシ
 第六十四條 議長及議員ハ自己若ハ父子兄弟ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ議會ノ同意ヲ得ルニ非ラザレバ議事ニ參與スルコトヲ得ズ但シ本條ノ場合ニ於テ參與權ナキ議員ヲ除キタル數ヲ以テ開會ノ定數ト見做ス
 第六十五條 本組合ノ會議細則ハ別ニ之ヲ定ム

第九章 會計規定

第六十六條 本組合ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル
 第六十七條 役員ニ職務相當ノ報酬及旅費ヲ給シ又代議員ニ旅費手當ヲ給スル事ヲ得
 第六十八條 組合費ハ財産ヨリ生ズル收入第五條第十九條第七十九條ニ依ル收入金又ハ過怠金其ノ他雜收入ノ外簽數割ヲ以テ組合員ニ賦課ス
 第六十九條 簽數割賦課徵收ノ手續ハ毎年度豫算編成ノ際之ヲ定ム
 第七十條 組長ハ毎會計年度歲入出豫算ヲ調査シ年度二ヶ月前ニ組合會ノ決議ニ付シ監督官廳ノ許可ヲ受クベシ
 豫算ヲ組合會ニ提出スルトキハ併セテ財産表ヲ提出スベシ
 第七十一條 削 除
 第七十二條 豫算外ノ支出若ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲メ豫備費ヲ設クベシ但シ組合

會ノ否決シタル費途ニ充ツル事ヲ得ズ

第七十三條 決算ハ會計年度二ヶ月以内ニ完了シ決算報告書ヲ作り業務成績表ヲ添へ組合會ノ認定ヲ經テ主務官廳ニ報告シ同時ニ組合員ニ通知スベシ
 第七十四條 本組合ノ經費過怠金及其ノ他ノ負擔金ヲ指定ノ期日內ニ納付セザルモノアリタルトキハ該期日後五日ヲ經過スル毎ニ三回ヲ限度トシ督促令狀ヲ發シ督促令狀ヲ發シタルトキハ之ニ要シタル實費ハ滯納者ヨリ徵收スルモノトス

第十章 製造品検査規定

第七十五條 検査所ヲ組合事務所內ニ設置ス
 第七十六條 製造品ノ検査ハ調製、品位、量目、ニ付之ヲ行ヒ其ノ方法細目ハ評議員會ノ議決ニヨリテ之ヲ定ム
 第七十七條 検査上製造品ヲ左ノ等級ニ區別ス但シ本規定ノ等級ニ依リ難キモノハ總テ等外トス

等級	團體標章	平均合格デニール	細太範圍
一 等	金 櫻	一九ヨリ二四迄	一六ヨリ二八迄
二 等	金 紅葉	二二ヨリ二八迄	一七ヨリ三一迄
三 等	金 孔雀	二六ヨリ三二迄	一九ヨリ三七迄

四等	金	鳩	三〇ヨリ三六迄	二二ヨリ四五迄
五等	金	鶏	三三ヨリ四二迄	二五ヨリ五三迄
六等	金	薔薇	三九ヨリ四八迄	三二ヨリ六七迄
七等	ツ	バ	四五ヨリ五九迄	三六ヨリ八〇迄
八等	セ	ミ	五六ヨリ七四迄	四二ヨリ九五迄
九等	ト	ン	七〇ヨリ九二迄	五三ヨリ一一四迄
十等	テ	フ	八九ヨリ一一三〇迄	七〇ヨリ一一五〇迄
十一等	ギ	ス	一二五ヨリ一七五迄	一〇五ヨリ一九五迄
十二等	ハ	チ	一七〇ヨリ二五〇迄	一五〇ヨリ三〇〇迄

第七十八條 製造品ノ検査ヲ了リタルトキハ組合團體標章ヲ貼用スルモノトス

第七十八條ノ二 本組合ノ團體標章ヲ使用スルモノハ組合員ニ限ルモノトス

第七十八條ノ三 本組合ノ團體標章ハ組合員ノ請求ニヨリ組合事務所ニ於テ其製品ニ貼用スルモノニテ各自任意ニ使用スルコトヲ得ズ

第七十八條ノ四 團體標章權ノ侵害ニヨリ各使用者ニ損害アリタルトキハ其損害額及補償方法等ハ評議員會ニ於テ決定スルモノトス

第七十九條 製造品検査手数料トシテ一定ノ金額ヲ徴收スルコトヲ得但手数料額及徴收方法ハ評議員會ノ決議ニヨリ組長之ヲ定ム

第八十條 削除

第十一章 仲裁判斷及調停

第八十一條 本組合ハ當業者ノ請求ニヨリ組合員間ニ生ジタル營業上ニ關スル紛議ノ仲裁判斷ヲ爲スモノトス前項ノ請求ヲ爲シタル各當業者ハ係争ノ事實及理由ヲ記シ證據書類ヲ添へ本組合ノ仲裁判斷ニ服シ後日異議ナキ旨ヲ記載シタル書面ヲ差出スベシ

第八十二條 仲裁判斷ノ請求アリタルトキハ時宜ニ依リ評議員會ニ於テ評議員中ヨリ一名ノ仲裁主任者ヲ選定スルコトヲ得

第八十三條 評議員會又ハ仲裁主任者ハ當事者ヲ召喚シ其ノ辨明ヲ聞クコトヲ得

第八十四條 仲裁判斷ハ理由ヲ附シタル判斷書ヲ交付シテ之ヲ施行スルモノトス

第八十五條 仲裁事件ニ關係ヲ有シ又ハ親族等トノ關係アル評議員ハ仲裁主任者トナリ仲裁判斷議決ニ加ハルコトヲ得ズ

第十二章 職工傭入取締

第八十六條 削除

第八十七條 削除

第八十八條 削 除

第八十九條 削 除

第九十條 削 除

第九十一條 削 除

第九十二條 削 除

第九十三條 削 除

第九十四條 削 除

第九十五條 削 除

第九十六條 削 除

第九十七條 削 除

第九十八條 削 除

第九十九條 削 除

第一百條 削 除

第一百零一條 削 除

第一百零二條 削 除

第一百零三條 削 除

第一百零四條 削 除

第一百零五條 削 除

第一百零六條 削 除

第一百零七條 削 除

第一百零八條 削 除

第一百零九條 削 除

第一百一十條 削 除

第一百一十一條 削 除

第一百一十二條 削 除

第一百一十三條 削 除

第一百一十四條 削 除

第一百一十五條 削 除

第一百一十六條 削 除

第一百一十七條 削 除

第一百一十八條 削 除

第一百一十九條 削 除

第一百二十條 削 除

第一百二十一條 削 除

第一百二十二條 削 除

第一百二十三條 削 除

第一百二十四條 削 除

第一百二十五條 削 除

第一百二十六條 削 除

第一百二十七條 削 除

第一百二十八條 削 除

第一百二十九條 削 除

第十二章 違約者處分

- 一 習業職工契約年限ヲ三ケ年トス
- 二 普通職工契約年限ヲ一ケ年トス

第九十五條 職工契約年限左ノ如シ

與シテ勸誘スルコトヲ得ズ

第九十四條ノ三 本組合員ハ職工募集ニ付組合會ニ於テ議決シタル以外ノ金錢物品ヲ贈

第九十四條ノ二 削 除

從事シ成績良好他ノ模範トナルベキモノアリタルトキハ組長ニ届出ヅベシ組長ハ其

ノ届出ニヨリ組合事務所ヨリ賞狀ヲ附與ス

第九十四條 本組合員ノ職工ニシテ明治三十五年六月ヨリ同一工場ニ五ケ年以上誠實ニ

第九十六條 第三條第六條乃至第十二條第七十八條第七十八條ノ三ニ違背シタルモノハ

一 束又ハ一括毎ニ各一事項ニ付金拾錢以上金參圓以下ノ過怠金ニ處ス

第九十七條 削 除

第九十八條 第二十條第二十一條第二十三條第二十六條第三十一條ニ違背シタルモノハ

金五圓以上金拾圓以下ノ過怠金ニ處ス

第九十九條 第十三條ニヨル組長ノ處置ヲ拒ミタルモノハ金拾圓以上金百圓以下ノ過怠

金ニ處ス

第一百條 第三十條第二項ニ依リ評議員會ニ於テ本組合員ノ製造品ヲ取扱フ絲商ニシ

テ全條第一項ノ規定ニ該當スル不徳義者ナリト決定シタルトキハ本組合員ハ該不徳

義者ト六ケ月間取引ヲナサルモノトス

前項ニ違背シ取引ヲナシタル組合員ハ金拾圓以上金貳百圓以下ノ過怠金ニ處ス

第一百零二條 第十二條ノ一第九十四條ノ三ニ違背シタルモノハ金五拾圓以上金五百圓以

下ノ過怠金ニ處ス

第一百零三條 組合會ニ於テ決議セシ新繭及春挽製絲ノ始業並ニ終業期日又ハ臨時休業並

簽數制限ニ違背シタル者ハ一簽ニ付金壹圓以上金參拾圓以下ノ過怠金ニ處ス

第十四章 定款變更

第一百一條 定款ノ變更ヲ要スルトキハ組合會ノ決議ニヨリ農林大臣ノ許可ヲ請フベシ
定款變更ノ議決ハ代議員定數ノ三分ノ二以上ノ同意アルヲ要ス

第十五章 解散

第一百二條 本組合ヲ解散セムトスルトキハ總組合員三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ議決シ
主務官廳ノ許可ヲ請フベシ

第一百三條 本組合ノ解散ヲ議決シタルトキハ本組合員中ヨリ七名ノ清算人ヲ選定シ解
散ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシムルモノトス

第一百四條 清算終了ノ後殘餘ノ財産アルトキ若ハ組合ノ財産ガ其債務ヲ完済スルニ不
足ナルトキハ清算人ハ解散當時代議員タリシ者ノ集會ヲ開キ過半數ノ同意ニ依リ其
ノ分配又ハ償還ノ方法ヲ議定スルモノトス組合財産ヲ以テ債務ヲ完済スルコトヲ得
ザルトキハ其ノ不足ニ依ル部分ハ解散當時ノ組合員タリシ者ノ負擔トス

第一百五條 削除

附則

第一百六條 本定款ハ認可後一週間ヲ經テ施行スルモノトス
第一百七條 第四十五條ノ變更ハ次期改選期ヨリ之ヲ施行スルモノトス

役員

(昭和十二年六月現在)

組長	清水 壽一	副組長	福井 廉次
評議員	後藤 嘉吉	評議員	宇藤 金藏
全	内藤 十吉	全	河合 淺之丞
全	柴田 照吉	幹事	金子 丈作
代議員	前田 馨	北川 耕次郎	淺井 義雄
	小松 德三郎	鈴木 勳	清水 實次
	字藤 菊三郎	小淵 義一	柴田 けん
	大林 正志	小原 幸一	清水 織示
	福井 德太郎	大澤 松治郎	德増 作五郎
	内藤 耕藏	後藤 佐平次	村田 雄一郎
理事	井上 博	石田 一	坂部 隆次
書記	鈴木 はな		
電話係	高橋 すみ		

375

380

終